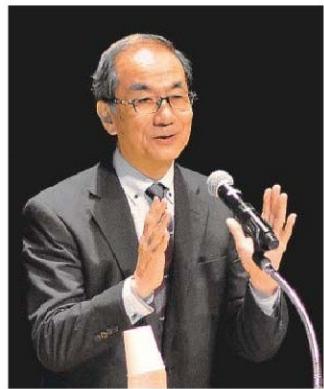


「家康公に尊敬の念」

**静岡で徳川
みらい学会 中村氏(民俗学者)が講演**

徳川時代の歴史的意義を発信する「徳川みらい学会」(会長・芳賀徹)は、9日、第4回講演会を



家康に関する伝説について考察した中村さん=静岡市清水区の清水文化会館マリナート

中村さんは徳川家と家康にまつわる各種の伝説、大御所時代の駿府の様子、家康と庶民の交わりなどを挙げ、庶民からみた家康像を論じた。

中村さんは徳川家と家康にまつわる各種の伝説、大御所時代の駿府の様子、家康と庶民の交わりなどを挙げ、庶民からみた家康像を論じた。

一郎さんが「庶民の中の家康公」伝説と史実のはざまで」と題して話した。約350人が聴講した。

伝説を含む数々の逸話について、中村さんは「家康公の窮地を救った庶民に特権、姓などが与えられたといつ話が多い。事実と確認できないものもあるが、庶民に語り継がれることで、家康公への尊敬の念が増すことにつながった」と分析した。

中村さんは大御所時代の駿府を「日本きっとエンターテインメント空間だった」とし、現代の静岡の活性化のヒントをこの時代に探るよう提案した。